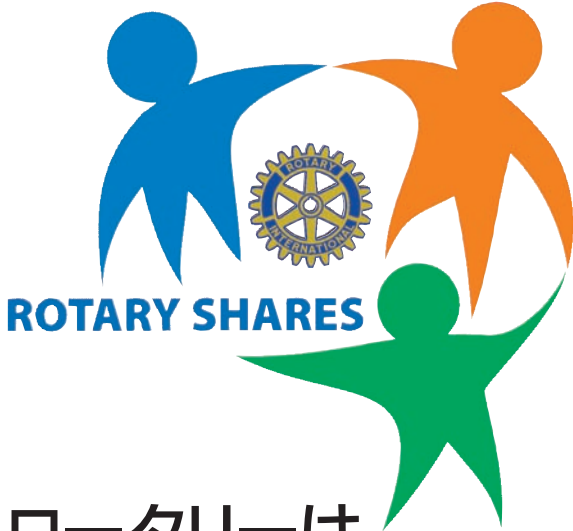




# 士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.13 No.2197



## ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度RI会長  
ウィルフリッド・J・ウィルキンソン



士別中学校 武田吉夫 画

- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／本山 忠之
- 副会長／三野 博司
- 幹事／千葉 繁夫

### 今日のプログラム

### 第2277回例会 2007年10月29日(月) 〈普通例会〉

#### ■10月22日の記録■ 〈普通例会〉

- 司会 志村孝幸会場監督
- 斉唱 奉仕の理想
- 本日の出席 出席率73.77% 会員61名中、出席者45名
- 本日の欠席 足利光治、阿達 勇、伊藤優市、犬伏彰吾、今井忠則、大塚勝人、国森和磨、齊藤 進、佐藤安司、汐川泰晴、谷 温恵、寺下隆通、鍋島 秀、渡辺正一、佐藤元保、坂野虎溪
- メイクアップ 本山忠之、織戸俊二、大塚勝人、千葉道夫、足利光治、佐藤元信、山本俊一、福島栄三、福澤丹治、渡辺寿男 (10/9 三クラブ奉仕団体親睦パークゴルフ大会、士別市)
- ビジター 一瀬和則様 日生相互会社営業所長
- ゲスト 阿達 勇会員 士別信金・名寄信金合併記念
- ニコニコBOX 織戸俊二会員 孫誕生祝
- 尾崎 学会員 士別中学校新校舎落成記念
- 佐藤元信会員 平成19年度上川管内体育協会連絡協議会表彰

累計 184,000円

### 例会予定

#### ■10月の予定……………(職業奉仕月間)

- 10月1日(月)／普通例会・理事会
- 10月5日(金)～7日(日)／地区大会(北見市)
- 10月8日(月)／休会(法定休日：体育の日)
- 10月15日(月)／普通例会(ライラセミナー報告会)
- 10月22日(月)／普通例会(卓話)
- 10月29日(月)／普通例会(卓話)

#### ■11月の予定……………(ロータリー財団月間)

- 11月5日(月)／普通例会・理事会
- 11月12日(月)／普通例会
- 11月19日(月)／普通例会
- 11月26日(月)／夜間例会

## ■会務報告……………本山忠之会長

- 先週末は風が大変強く又、雨も降りましたので本当に寒い週末でした。もう何時雪が降っても不思議ではない季節ですが、私もそろそろ冬の準備をしなければいけないかと思っています。

先日、北星信用金庫の本店に伺い阿達専務にお会いしてまいりました。土別信用金庫と名寄信用金庫が9日に合併したばかりで新しい環境の中、各地に挨拶回りをしたりと大変忙しい日々を過ごされているようです。合併は無事行われましたが、次年度のRCの入会継続も含めまだまだ未解決の問題も多く残されているとのことでした。出来れば11月位には例会に出席し挨拶をしたいとお話されておりました。

皆様ご承知のとおり次期商工会議所の会頭に千葉会員が内定され又、副会頭に福島会員が内定されました。会頭・副会頭につきましては議員総会で承認を受けられるわけですが、お二方を含めRCメンバーの多くの方が商工会議所議員に選任されておりますので、千葉会頭の元、地域振興のため皆様の活躍を願っております。

住友生命の新しい所長であります萬歳氏にRC入会のお誘いをしてまいりました。土別RCのことは知人から聞いているとの事で入会には前向きなお話をしていただきました。昨年度から、転勤により2名・死亡退会2名と会員数が減少しておりますが現状の経済情勢ではRCはもとより社会奉仕に対し積極的に係わろうという人は少ないと思われまふ。次年度以降の組織運営のためにもメンバーの皆様におかれましては新入会員の情報をお寄せいただきたいと思ひます。

## ■幹事報告……………千葉繁夫幹事

- パスト会長会総会を10月25日(木)午後6時より、居酒屋「やまもと」で開催いたしますので、関係者の皆様宜しくお願ひいたします。
- 12月の例会のご案内です。  
3日通常例会、年次総会、理事会、10日夜間例会  
ファミリーパーティー、17日通常例会、24日休会  
(振替休日・天皇誕生日)、31日特別休会
- 次週29日の例会は、普通例会ですのでお間違えなないようにしてください。
- 新潟県中越沖地震災害義援金(1,000円)を、ま

だ納入されていない方は会計において受付けておりますのでご協力お願ひいたします。

## ■その他の報告……………南部哲男会員

- 今回の火災事故について一言、皆様にお詫びとお礼を申し上げます。

今回の火災事故にあたりまして、皆様には大変ご心配をおかけしました。心からお詫び申し上げます。お陰様で予想より早く復旧できまして、3日後の朝から業務を開始しております。早期に復旧できましたのも、偏に皆様方のご支援、お力添えのお陰でございます。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ■卓話……………職業奉仕委員会 北村浩史委員長

- 10月が職業奉仕月間ということもあって、職業奉仕の話をしなさいということなんですが、正直、「職業奉仕」とはと言われてもいまだによくわかりません。

ただ今回、恥ずかしながらロータリーに入って初めて地区大会に参加して、職業奉仕が「ロータリーの根幹をなす」とかいわれ、基調講演も職業奉仕に関する内容だったので、ロータリーにおける職業奉仕の位置づけがとっても大きいことはわかりました。

職業奉仕の話になると、必ず4つのテストが引き合いにだされます。

卓話ということでさっそくわが身を振り返ってチェックしてみました。

### その1 真実かどうか

これは新聞も求められている最大の基本の基本の原則です。「真実を報道する道北日報!」、理想は崇高だが、現代は情報が複雑に錯綜し、本紙も含めて新聞やテレビ、雑誌、ネットなどのメディアは真実のまわりにはなんとか迫ることはできますが、核心にはなかなか到達しえないのが現実です。メディアはどちらかというと嘘を探す方に忙しいかもしれません。

よく言われるように「真実は嘘によって暴かれる」、つまり真実に迫ろうとすれば、その真実をごまかそうとする嘘を見抜けばいいということになります。「真実かどうか」、わが職業に振り返ると、こういう姿勢を持続していくことの方がきつ

いし、たいへんだと思うのですが、まずはその1は、半分合格点かな？と思います。

### その2 みんなに公平か

これもとても難しいです。新聞はいつも話題性のあるものを取り上げます。たとえば市内の誰かがパークゴルフの大会で全国に出場するのが決まったとします。この人が市内では初めての人なら話題性充分だとして大きく取り上げますが、ではその直後に2人目の人が同じ大会で全国大会に行くとなれば、これはもう話題に新鮮さがなくなり、扱いも小さくならざるをえません。取り上げない場合もあるでしょう。これなんかは扱いとして不公平です。同じ内容でもある人は取り上げ、別の人は取り上げない、同じようなイベントでも取り上げる時もあればそうでない時もある。「みんなに公平か」と問われれば、あいにく公平であるとは言いきれません。

またある内容がその人にとってはお得でも、別の人にとっては不利になる場合もあります。こういう両面性は新聞が持っている宿命のようなものです。ということで、その2も半分合格かな、というところです。

### その3 好意と友情を深めるか

この理念は仕事と関係ないとは言えませんが、一例を探すのが難しいので、パスします。

### その4 みんなのためになるかどうか

これが社会の公器ともいわれる新聞にとってはとても重要なことで、本紙のような地方紙にとっても最大の目標です。

これはあくまでも本紙の読者を想定しての話ですが、たとえばみなさんの前からいきなり「道北日報」が配達されなくなった時のことを考えてみてください。士別市のイベントや明日の行事、士別市で今何が行われているのか、選挙はどうなるのか、灯油の価格はどうなんだ、役所では市民に何を行おうとしているのか、ロータリークラブは、ライオンズクラブはどのような活動をしているのか、士別市の財政事情はどうなんだなど、これまで地域や生活とかかわりながら、毎日のように目の前に届いた情報がいきなり遮断されるわけです。

こうなると士別の中での情報の通りが不透明になって、情報飢餓に陥らざるをえません。今まで何気なく当然のように受け入れていた地域情報に

遅れが生じたり、また知らないことも相当量増えていきます。人間、今までの情報が突然途絶えると不安を覚えがちです。

地域の情報をいち早く細やかに提供することは、地域の中で風通しをよくしていくという意味では、みんなのためになっているとは思いますが、まちの中に情報を通して少しは活力を与えることはできるかなと思います。

ただし、じゃあ、新聞がなきゃどうなんだと考えると、無くて済んでいる地域もたくさんあるわけですから、まあ、これはなければいけないのかまわらないのかもしれませんが。

さきほどの話と矛盾しますが、実は新聞の存在って何なの、と考えると、自分でもまだはっきりとは見えていないというのが実情です。

でもわが身に振り返ると、やっぱり新聞人として生活しているわけですし、「我が家の犬を探してください」と切実な表情でわが社にきて「犬を探しています」の広告をお願いされるとき、地方紙の使命をひしひしと感じるわけです。これはやはり止められませんよね、と。

本紙は毎日発刊している小さな日刊ですが、この屋台骨ともいえる士別市は人口2万3千人です。これは地方紙を発刊している都市の中でももっとも小さな都市であるといっても過言ではありません。

地方紙の集まりの中で、士別市ってどこにあるんだと聞かれ、その知名度の低さ、さらには都市規模を紹介すると、どうしてそんな小さなまちで日刊紙が持続できるんだと不思議がられます。けれどもまもなく創刊60周年になります。小さなまちでも日刊紙を発行できるんだという自身と誇りを与えてくれるのは、やはり大切にかわいがってくれる市民のおかげだと思います。

地方紙はこれからその環境がいつそう厳しくなります。さらには士別市の都市の力も衰えてくれば、当然、購読、広告の量も減り、発刊が難しくなっていきます。

さらには今やメディアはインターネットを使って、無料で情報を提供しなければならぬ時代です。記者たちが汗水たらして集めてきた記事を、活字媒体の新聞だけでなくホームページなどで無料で配信しなければ、公的な新聞だと認めてくれ

ません。

若い人たちはこれが当然だと思ってますので、勢い、新聞を購読しません。様々な新聞社の記事をネットでかき集めて読めば済むことです。

当社もホームページで主な記事を掲載しています。やはり無料なので、「みんなのためになっている」かとは思いますが、メディアとして新聞として認められるためには、小さな新聞社も苦勞がたえません。

だから無料で記事を提供するホームページなどを持たない新聞社は、これからは生き残れないと思います。ですが、今やホームページを持たない日刊の新聞社などこの世にほとんどありませんし、探す方が難しいです。

そんな中で、なんとかがんばれるのは、奢ってはいけないけれど、「みんなのためになるかどうか」という気持ちを持続できるかどうかは大きな要素です。

というわけで、このチェックも半分合格といったところでしょうか。

以上、自分と職業奉仕へのかかわりを話しました。

4つのテストでは3つが半分合格、ひとつは判定不能といったところですが、今回卓話を通して、私自身、職業奉仕とはなんぞやと考えるきっかけにはなったかと思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

#### ◆ポリオ撲滅活動への終止符を打つために◆

世界的なポリオ撲滅活動のために、50億ドルが投じられてきました。そのおかげで1988年以来、ポリオ感染国は現在の4か国にまで減少、世界のウイルスの99%は取り除かれています。ロータリーは、ポリオのない世界を保証するまでに、6億5000万ドルを投じ率先してきました。しかし、まだ4か国でポリオが残っているために、ポリオ撲滅のめどは立っていません。

近年、科学分野の学会から、難しい質問が投げかけられています。果たして世界はポリオを撲滅させることができるのだろうか？私たちはポリオを抑制するべきではないかと。

ポリオのまん延を抑制する方がポリオを撲滅するよりはるかに費用がかかると、ハーバードの研究者は、その論文に書いています。発展途上世界では、ポリオを抑制する戦略を取れば、その後40年にわたり1,000万人の子どもがポリオに追い込まれると予想されます。しかし、ポリオを撲滅する戦略をとれば1年で10億ドルの経費を節約することができるのです。